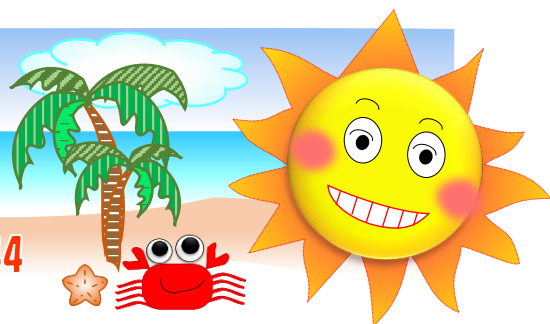


9月のほけんだより

呉市役所こども施設課 0823-25-3144



だいじなプライベートゾーン

からだの内部につながり、いのちに関わる部分を
プライベートゾーンといいます。



出典：かわいいフリー素材集 いらすとや
http://www.irasutoya.com/p/terms.html

「自分だけが見ていいところ、
自分だけが触っていいところ」です。

『下着（シャツとパンツ）で
守っている部分』はだいじなところ
と伝えると分かりやすいです。

プライベートゾーンを含め、
からだ全てがだいじと伝えましょう！

「自分のからだって、いいな」を育てよう

からだのさまざまな部位の名前や役割を知る

手や足、目などと同じように性器も一緒に教えましょう。

性器は、大人になっても使える「性器」でも良く、「おまた」、「あかちゃんの
生まれてくるトンネル」、「おしっここの出る穴」のように、こどもが理解しやすい
言葉でもよいです。

男の子と女の子は
おちんちんの形がちがうね。



足は歩いたり、
走ったり、ジャンプする
ところ！



おむつを交換するとき、着替えを手伝うとき、からだを洗うとき、塗り薬を塗るとき
などに、**からだの部位を言いながら、触れることについて事前の声かけ**をしましょう。
そうすることで、からだの部位を自然と覚えることができ、「**自分はだいじに扱われる
存在だ**」という感覚が育まれます。

自分の「心地よい」を知る

乳児期から、抱っこなどのあたたかい触れ合いや、清潔に
保たれるケアを通して、こども自身が「心地よさ」、「安心感」
を学びます。

「心地よさ」を学ぶと、「なんかへんだな」、「いやだな」の
感覚も育ちやすくなります。

幼児期になったら、
こどもの興味に合わせ、
からだに関する図鑑や絵本などを
置いておくのもおすすめ！



自分のからだは
全部がだいじだよ！

「自分のからだは自分そのもの」、
だからだいじにしよう！

こどもに伝えよう！ みんなだいじ、からだのこと

「包括的性教育」という言葉があります。『包括的性教育』とは、「あかちゃんがどうやって生まれるのか？」という、
からだや生殖の仕組みだけでなく、自分のからだや気持ちを知る、自分らしさをだいじにするなど、幅広いテーマを含
む教育です。こどもの時期から、生活の中で繰り返し伝えていくことが、自分をだいじにすることに繋がります。

包括的性教育の第一歩！伝え方はいろいろあります！

普段の生活の関わりの中に、すでに「包括的性教育」があります。
大人が意識して関わる姿勢から、こどもは学んでいきます。

「いまどんな気持ちかな？」聞いてみよう

自分の気持ちを知る、相手の気持ちを聞く

乳幼児期は、自分の気持ちを知る、思いを表現する言葉を学ぶ時期です。
大人が「きっと○○だろう」と決めるのではなく、**こどもがどう感じた
のかが、だいじ**です。ありのままの姿を認めていきましょう。

例え、同じハグであっても、人によって、
場所によって、時間によって、体調によっ
て、自分の気持ちが変わってよいです。



親子であっても、
「○○していい？」と
相手の気持ちを確認
してからにします。



ぎゅっとされると
うれしい。
友達とぎゅっと
するのは好き！

いきなり
抱きつかれて
びっくりした。



男の子らしく？ 女の子らしく？

性別ではなく、この子らしく！

性別にとらわれず、
こども自身が「いいな」と思う
「好きなもの」、「好きな色」、
「好きな遊び」などを、こどもが自由に
選びとる経験が大切です。

